

第3章 流域の社会状況

3-1 土地利用

流域の土地利用は、山地等が約51%、水田や畑等の農地が約40%、宅地等の市街地が約9%となっている。

平野部の大半は水田が占めており、砺波平野及び射水平野一帯に広く分布している。

表 3-1 小矢部川流域地系別面積

項目	田	畑	森林	宅地等	河川及び湖沼	その他	合計
面積 (km ²)	258	6	303	61	13	26	667
構成比 (%)	38.7	0.9	45.4	9.1	1.9	3.9	100

出典：国土数値情報（土地利用面積）

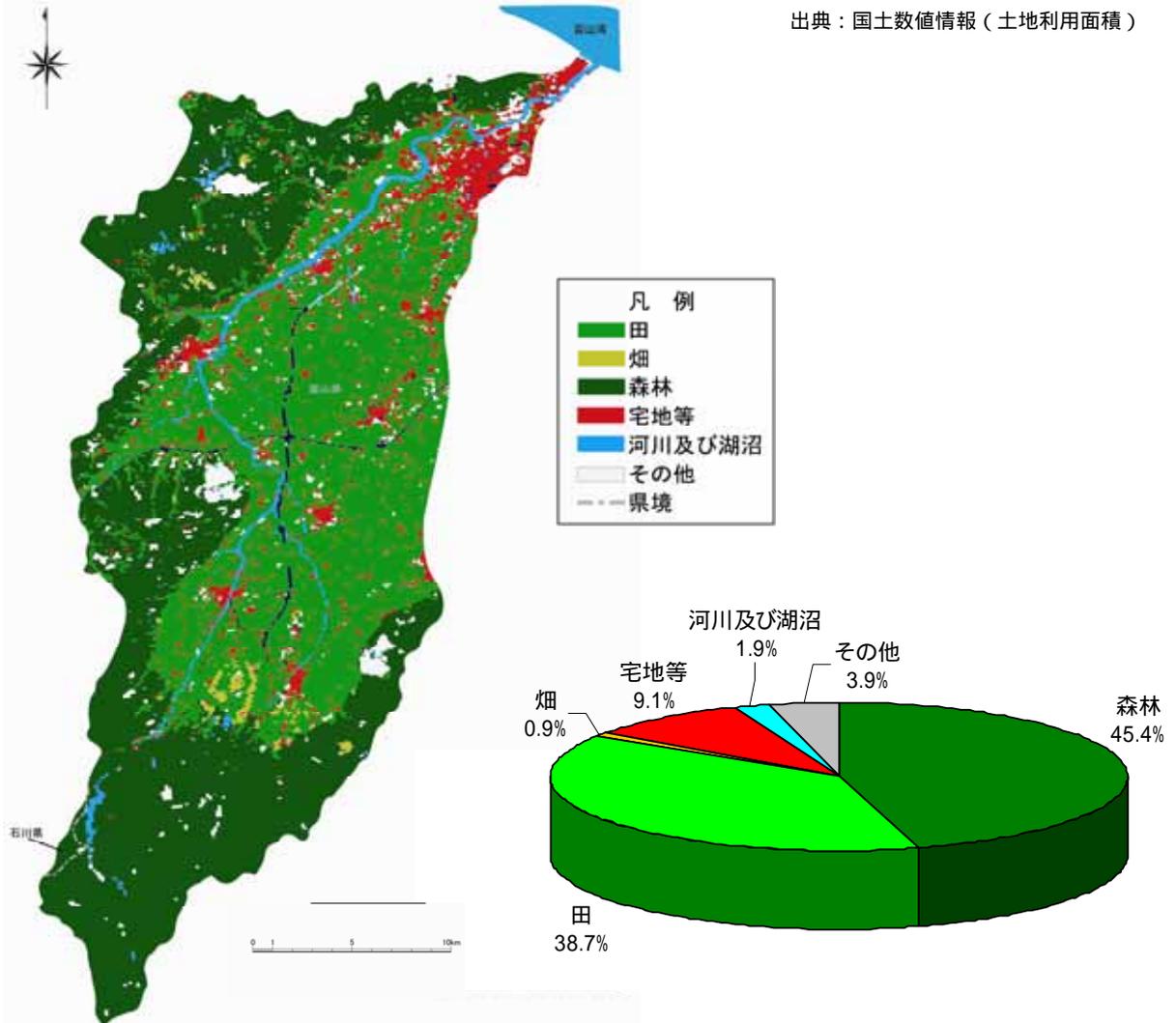


図 3-1 小矢部川流域内土地利用状況図

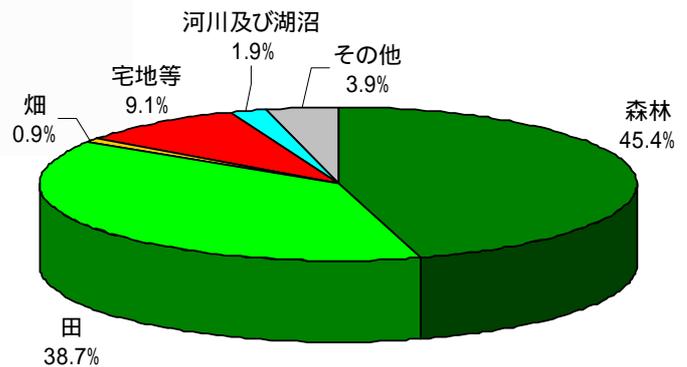


図 3-2 小矢部川流域地系別流域面積

3 - 2 人口

小矢部川流域内の総人口は約 30 万人で、うち約半数は高岡市が占めている。また、氾濫区域内の人口は 15 万人である。

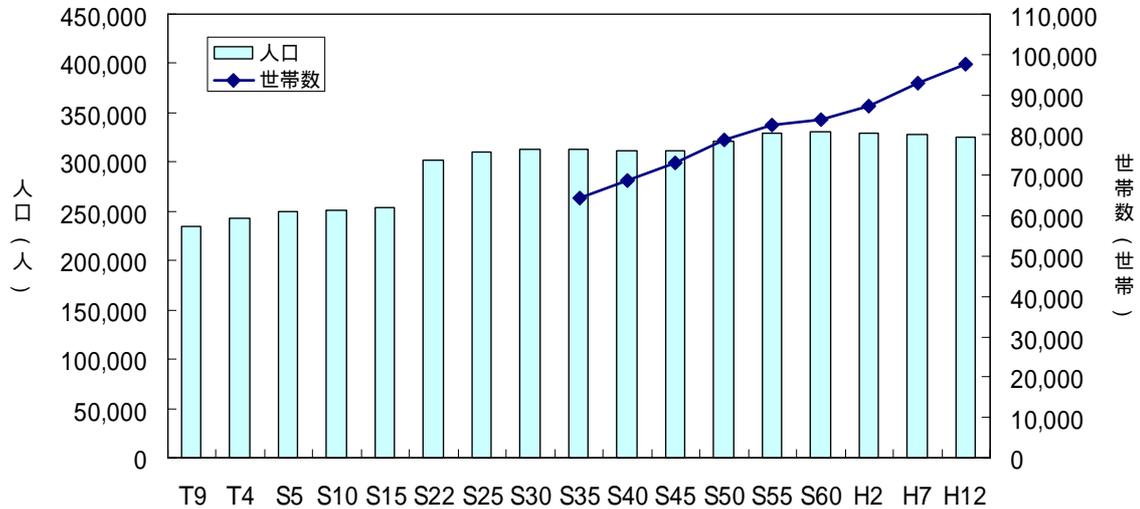


図 3-3 関係市町村人口・世帯数の推移

表 3-2 関係市町村の人口の推移

市町村名		大正9年	大正14年	昭和5年	昭和10年	昭和15年	昭和22年	昭和25年	昭和30年	昭和35年
合併後	合併前									
高岡市	高岡市	98,040	104,540	109,337	112,271	117,449	138,862	143,364	148,129	151,226
	福岡町	10,149	10,029	9,851	9,777	9,951	11,863	11,896	11,789	11,513
砺波市	砺波市	32,366	32,078	32,360	31,660	31,397	37,337	37,861	37,405	36,453
	庄川町	6,150	8,094	7,450	6,630	6,499	7,732	8,165	8,168	7,853
小矢部市	小矢部市	32,107	31,951	32,077	31,191	30,700	37,233	37,413	37,382	36,727
南砺市	城端町	11,088	11,053	11,540	11,394	11,352	13,881	14,377	14,254	13,733
	井波町	9,177	9,247	9,628	10,576	9,762	13,019	13,334	12,453	12,339
	井口村	1,553	1,572	1,587	1,632	1,641	1,773	1,825	1,728	1,629
	福野町	12,706	13,901	14,281	14,458	13,820	15,884	16,123	16,595	16,386
	福光町	21,202	21,051	21,362	21,478	21,314	24,729	25,192	25,340	24,785
合計		234,538	243,516	249,473	251,067	253,885	302,313	309,550	313,243	312,644

市町村名		昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
合併後	合併前								
高岡市	高岡市	155,108	159,664	169,621	175,055	175,780	175,466	173,607	172,184
	福岡町	11,099	11,177	11,530	11,845	12,226	12,403	13,220	13,498
砺波市	砺波市	34,768	34,023	34,286	35,830	36,516	37,070	38,531	40,744
	庄川町	7,772	7,380	7,519	7,700	7,634	7,451	7,387	7,348
小矢部市	小矢部市	35,646	35,367	35,791	36,497	36,711	36,374	35,785	34,625
南砺市	城端町	12,783	12,048	11,885	11,783	11,492	11,243	10,603	9,948
	井波町	12,068	11,789	11,637	11,601	11,540	11,315	10,929	10,373
	井口村	1,537	1,440	1,432	1,448	1,448	1,362	1,359	1,296
	福野町	15,831	15,275	15,280	15,269	15,333	15,248	15,044	14,682
	福光町	24,570	22,923	22,610	22,483	22,459	22,013	21,233	20,387
合計		311,182	311,086	321,591	329,511	331,139	329,945	327,698	325,085

出典：富山県 HP 富山県内市町村国勢調査人口及び世帯数

表 3-3 関係市町村の世帯数の推移

市町村名		昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
合併後	合併前									
高岡市	高岡市	32,438	35,878	39,475	43,521	46,136	47,106	49,523	52,456	55,302
	福岡町	2,340	2,426	2,576	2,760	2,845	2,974	3,108	3,426	3,781
砺波市	砺波市	7,090	7,249	7,499	7,847	8,317	8,531	8,944	10,083	11,421
	庄川町	1,633	1,664	1,682	1,768	1,883	1,928	1,925	1,977	2,120
小矢部市	小矢部市	7,198	7,487	7,778	8,125	8,360	8,417	8,613	9,111	9,329
南砺市	城端町	2,727	2,731	2,725	2,741	2,748	2,743	2,814	2,842	2,830
	井波町	2,538	2,610	2,675	2,782	2,836	2,841	2,858	2,899	2,890
	井口村	303	296	298	297	298	297	295	309	312
	福野町	3,229	3,336	3,353	3,533	3,680	3,676	3,788	3,892	3,979
	福光町	4,898	5,158	5,138	5,296	5,310	5,454	5,490	5,748	5,622
合計		64,394	68,835	73,199	78,670	82,413	83,967	87,358	92,743	97,586

出典：富山県 HP 富山県内市町村国勢調査人口及び世帯数

3 - 3 産業と経済

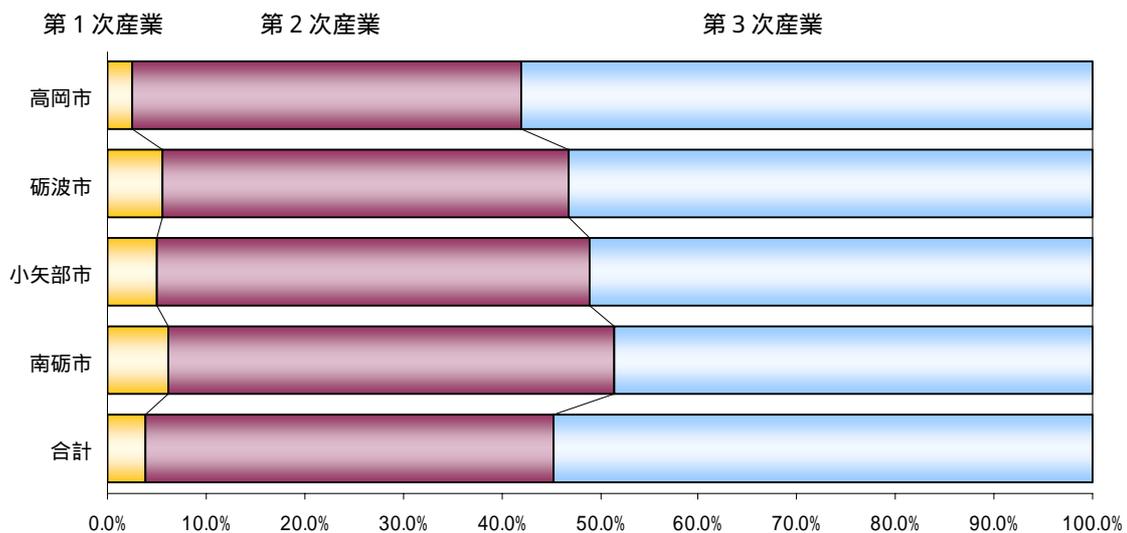
小矢部川下流の砺波平野は広大な水田地帯を形成しており、主産業は農業で米作が大部分を占めるが、その他に野菜・果実の生産も盛んである。平野部上流は小矢部川からのかんがい用水に、中流、下流は主として庄川からのかんがい用水に依存している。

砺波平野一帯は市場町、宿場町、あるいは門前町として発達した市街地がほぼ等間隔で散在している。古くから森林資源を原料とした工業およびこれらの工業との関連産業が発達しており、現在、豊富な労働力を立地要因として綿紡績、電器抵抗器、農産物を原料とする食品工業、紡績機の製造から発達した機械工業が伸びている。

下流部は高岡市を中心として工業地帯を形成している。工業は390年の伝統をもつ鋳物工業などの中小企業と、明治以降次第に興隆してきた鉄鋼、繊維、紙、パルプ、化学、食品などの大企業から成り立っている。これらの工業が発達した要因としては、豊富な電力と水、伏木富山港（伏木地区）の存在などがあげられる。この下流部は高岡市を中心として新産業都市に指定され、富山市とともに一大工業地帯として発展している。

表 3-4 流域内の労働力構成（平成 12 年）

市町村名	第 1 次産業 (人)	第 2 次産業 (人)	第 3 次産業 (人)	合計 (人)	第 1 次産業 (%)	第 2 次産業 (%)	第 3 次産業 (%)
高岡市	2,434	38,981	57,277	98,692	2.5%	39.5%	58.0%
砺波市	1,486	10,840	13,985	26,311	5.6%	41.2%	53.2%
小矢部市	940	8,285	9,652	18,877	5.0%	43.9%	51.1%
南砺市	2,073	15,011	16,133	33,217	6.2%	45.2%	48.6%
合計	6,933	73,117	97,047	177,097	3.9%	41.3%	54.8%



出展：農林水産省「わがマチ・わがムラ - 市町村の姿 -」より

図 3-4 関係市町村の産業就労人口の構成比(平成 12 年)

表 3 - 5 主な特産品

市町村名	主な特産品
高岡市	トマト・リンゴ・チューリップ・竹の子・山菜・自然薯・かぶら寿し・かきもち・高岡銅器・高岡漆器・菅笠
小矢部市	栗・自然薯・里芋・リンゴ・バラ・ウグイ料理・にしん糍漬・かきもち
砺波市	柿・リンゴ・チューリップ・庄川ゆず・山菜・大門素麺・庄川挽物木地
南砺市	リンゴ・里芋・菊・ほうきんの実・大かぶ・赤かぶ・カノコユリ球根・千石豆・白ネギ・梨・黒大豆・椿・山菜・どじょう蒲焼・かきもち・とちもち・かぶら寿司・干柿・五箇山豆腐・五箇山そば・利賀そば・清流そうめん・岩魚・井波彫刻・玉杯・木製パット

小矢部川流域には多くの伝統工芸が育った。特に高岡市では、加賀藩の二代藩主・前田利長と三代藩主・利常が商工業を保護したため、銅器、漆器、金工など様々な技術が生まれた。



菅笠

室町時代初期、京都から福岡を訪れた「南岳」という僧侶が、福岡の見事な菅に感心して菅笠を作ったのが始まりと言われている。福岡の菅笠の生産量は、全国の約90%を占めていたこともあった。

写真提供：高岡市福岡総合行政センター



漆器

銅器と並ぶ、高岡の代表的な伝統工芸。1975年(昭和50年)には、高岡銅器と共に国の伝統工芸品の指定を受けた。

写真提供：高岡市



玉杯

小矢部川で採れる玉石を削って作る石の杯。今から約120年前に、若狭の国(福井県)の職人を招いたのが始まりだと言われている。

写真提供：南砺市福光行政センター



銅器

約390年の歴史を誇る伝統工芸。銅像や置物、寺の鐘など、銅器の全国シェアは90%以上にも及ぶ。高岡大仏も市内銅器業関係者達によって作られた。

3 - 4 交 通

小矢部川流域内には、J R北陸本線、北陸自動車道、東海北陸自動車道、能越自動車道、一般国道8号、156号等の基幹交通ネットワークに加え、北陸新幹線が整備中である。さらに、河口部には重要な国際貿易港としての機能を担っている特定重要港湾伏木富山港（伏木地区）があるなど交通の要衝となっており、富山県西部地域における社会、経済、文化の基盤を成している。

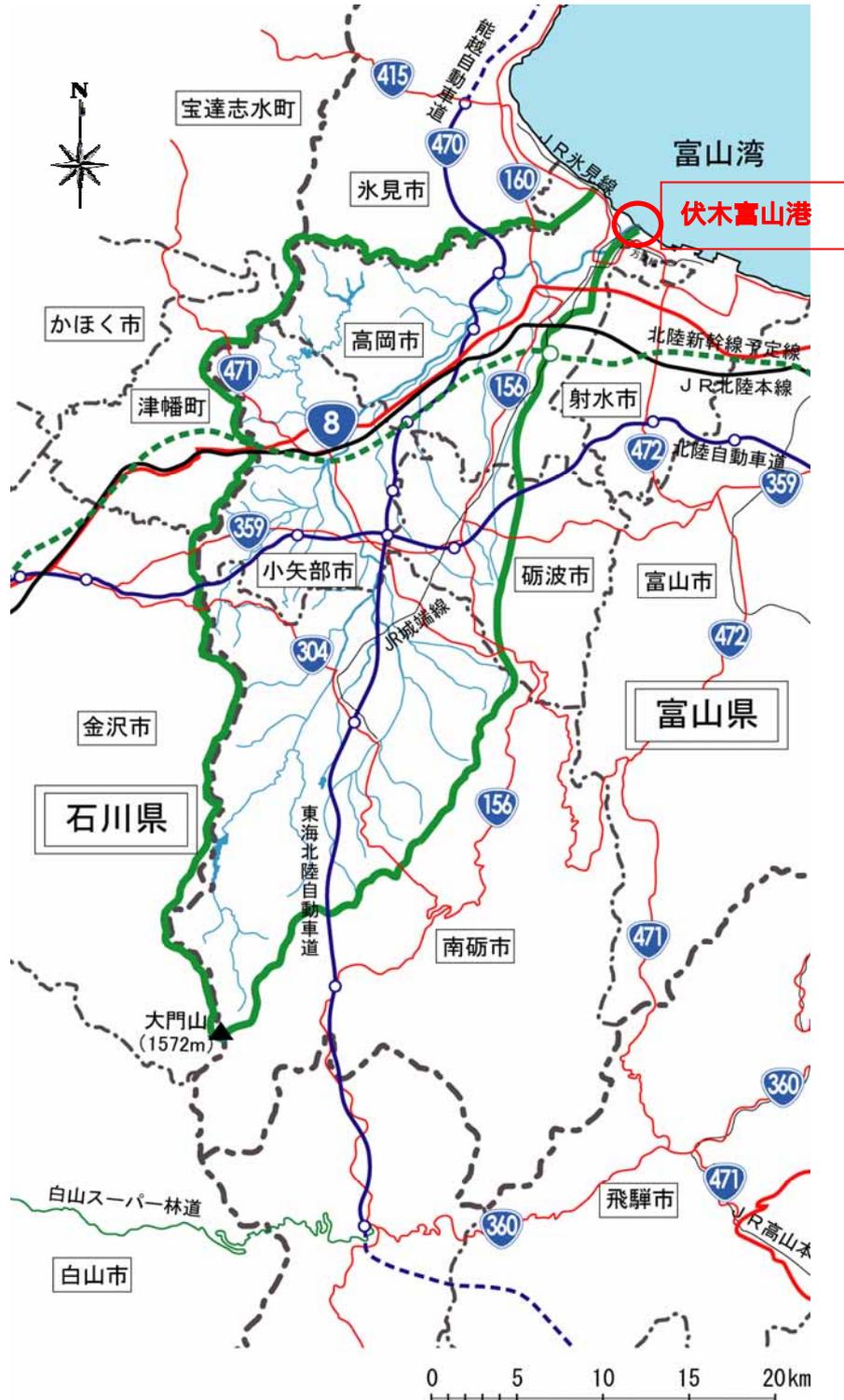


図 3-5 小矢部川流域の交通網